

# 「玉野市の文化財を見に行こう！」第1回～3回

## 1 はじめに

平成27年度～令和3年度まで、文化財保護強調週間のイベントとして、玉野市文化財保護委員の方の解説を聞きながら、市内の文化財を巡るイベントを開催しました。

通常では見られない彫刻や掛軸等の文化財を特別に公開していただき、参加した市民の方からは、「玉野市に貴重な文化財があることを知らなかった。良い経験となった。」といった喜びの声を多くいただきました。

今回は第1回～3回の内容を展示しています。

## 2 「文化財保護強調週間」

毎年11月1日から7日までの1週間は「文化財保護強調週間」とされています。

文化財は国民共有の貴重な財産です。文化財に関する理解と関心を深め、文化財保護への協力を得ることを目的とし、文化財所有者などの協力のもと、歴史的建造物や美術工芸品の特別公開、伝統芸能発表会などの様々な行事が全国的に開催されています。

## 第1回

【開催日】平成27年11月8日（日）

### 行程

- 八浜街並み保存拠点施設／だんじり
- 六角井戸
- 金剛寺 [不動明王立像] [阿弥陀如来坐像]
- 宗蔵寺 [宝篋印塔]
- 化粧地藏
- 鳥人幸吉まちづくりフェア



### ①八浜町並み保存拠点施設

八浜の町はかつて児島湾に面し、<sup>ふたごやま</sup> 両見山・<sup>だいしょうこんざん</sup> 金甲山・<sup>だいいんざん</sup> 大乗権山に囲まれた風光明媚な環境にあり、明治期以降にはハイガイの養殖産業や、<sup>もとかわ</sup> 元川の水運を利用した酒造や醤油の醸造業が繁栄し、近代は繊維・縫製産業も興りました。

この建物は、江戸末期から大正時代に建築された旧八浜町長、衆議院議員などを務めた藤原元太郎<sup>もとたろう</sup>の旧宅で、八浜地区における代表的な伝統的建造物です。施設内には展示資料室があり、民具や八浜地区の生活資料や写真、藤原元太郎<sup>もとたろう</sup>ゆかりの品等を展示しています。



②八浜のだんじり 岡山県重要文化財：平成 30 年 3 月 6 日指定

八浜八幡宮の祭礼に使われる山車（市内では「壇尻」と言う）で、西と南の2台があります。いずれも総けやきで、周囲に源平合戦などにちなんだ立派な彫刻が施され、南の彫刻には大阪の彫刻師のものがあり、江戸時代における大阪との文化交流が見受けられます。

祭礼当日は、奴に続いて、壇尻に子どもたちが乗り、笛や太鼓、鐘で囃しながら、青年がこれを曳いて進みます。



③六角井戸

この村井戸は、金剛寺が室町中期の 1424 年に元川方面から移転したときに掘られ、来港した船に飲み水を供給したとの言い伝えがあります。

井戸の内部は円形で、下部が広く上部に行くほど狭くなる構造。上部の直径は 2m で、江戸時代末期のものと思われる。

花崗岩製の囲い石が六角に組まれた、市内で唯一の中国式の井戸です。



④不動明王立像 玉野市重要文化財：昭和 33 年 1 月 9 日指定

像高 45cm、木造寄木造り漆仕上げで、一部截金（金箔を細かく切ったもの）手法や彩色を施した室町仏です。

胸の瓔珞（ようらく）（装身具の一種）も精巧であり、脇侍のこんがら・せいたか童子も当時のままです。

彩色や模様の美しさは、不動尊像中でも市内最高の出来といわれています。



⑤阿弥陀如来坐像 玉野市重要文化財：昭和 41 年 6 月 9 日指定

室町時代初期の作とされ、像高 60cm、檜材寄木造、漆塗りの小像です。もとは漆箔（漆塗りに金箔を押ししたもの）仕上げの像と思われ、ふくよかで、胸の豊かさなど女性を思わせる優雅さがあります。



### ⑥宝篋印塔

宝篋印塔とは陀羅尼經を納めるための塔で、この塔は広木地区の衛相庵にあったものを、大正期に移転したものです。

豊島石製で、基礎正面に「奉建立石塔 本願六十六部衆恵林」、裏面に「天正五丁丑年三月二日」と刻まれており、戦国末期1577年の石塔です。



### ⑦化粧地蔵

八浜・東児地区では、毎年盆前に子どもたちがお地蔵様に化粧をする風習があります。舟人か商人によって京都の化粧地蔵の風習が伝わったとされ、当地方に珍しい年中行事が残されています。



### ⑧見学の様子



## 第2回

【開催日】平成28年11月4日（金）

### 行程

高心の墓

- 旧専売局味野収納所山田出張所〔庁舎〕〔文庫〕
- 無動院〔聖観音菩薩立像〕
- 三宝院〔弘法大師画像〕
- 塩竈神社



### ①高心の墓

岡山県重要文化財：昭和34年3月27日指定

後閑地区の西湖寺跡にある高心の墓は、全高236cm、塔身正面に「沙弥高心幽霊之位」、右側面の地蔵像下に「至徳二年乙丑七月」（1385年）と刻まれ、市内の石造物では最古の年号です。

高心は南朝の武将でしたが、南朝に利あらず、この地に落ちのび、没したといわれています。



### ②旧専売局味野収納所山田出張所〔庁舎〕〔文庫〕

国登録有形文化財：平成23年10月28日登録

庁舎：木造平屋建、瓦葺、236㎡、明治41年竣工

全国に現存する明治期竣工の塩の専売庁舎は、山田出張所と赤穂塩務局のみで、希少価値の高い産業遺産です。

専売局廃止後は、山田村役場、玉野市山田支所として使用されました。



文庫：レンガ造平屋建、瓦葺、27㎡、明治41年竣工

防火・防湿・防犯対策が施され、塩専売に関わる公文書や資料が保管されていました。



### ③増吽僧正木像

讃岐生まれの増吽僧正（1366～1452年）は、室町中期に讃岐・備前・備中などで荒廃した寺院を復興した真言宗の高僧です。

近くでは由加山蓮台寺、八浜の金剛寺・日比の観音院などがあります。

山田無動院には増吽が入寂したという石棺があります。この日は石棺のほか、赤い僧服と頭巾を纏った増吽の木像や大般若経を保存する経蔵の内部も拝観することができました。



### ④大師画像

玉野市重要文化財：昭和49年12月26日指定

三宝院に伝わる古い弘法大師の画像です。

上部に「ト居於高野樹下 遊神於都卒天上…」（お大師様は高野山の樹下におられ、魂は浄土に遊行されています…）と、大師を讃える偈が墨書されています。

この字は増吽僧正（?～1449）の筆跡とよく似ており、室町時代中期の仏画と考えられています。



### ⑤木造 阿彌陀如来立像

玉野市重要文化財：平成30年2月27日指定

胸上・三宝院は、児島四・五・六番札所の慈等院・地蔵院・吉祥院が合併してできた真言宗の寺院です。本堂仏間正面に地蔵菩薩（市指定・鎌倉末期）・薬師如来・十一面観音が安置されています。

この日、宗教美術担当の委員が、仏間左側の釈迦如来立像と岡山・阿津の宝積院にある釈迦如来立像（岡山市指定重文）とが似ていることに気づきました。宝積院の仏像はもと氏神様のご神体で、明治の神仏分離令によって当寺に移されたものです。

三宝院のものも胸上八幡宮から移されたご神体であり、後日、委員は仏像の専門家とともに調査に訪れ、神仏混淆の姿を残す鎌倉期の作と推定する報告書を提出。

平成30年2月27日、玉野市重要文化財に指定され、強調週間のイベントによる貴重な発見となりました。



## ⑥塩竈神社 野崎武左衛門碑

明治17年(1884)、野崎武左衛門の孫・武吉郎が、東野崎浜に勧進されていた塩竈神社の境内に建立した祖父の業績を記した石碑です。

撰文は当時東京大学教授であった三島毅に依頼しました。

「武左衛門翁が資産をなげうって新地を開墾した中で、最大のものが東野崎塩田である。翁は、天保元年

(1830年)池田侯に開墾の許可を得、数々の艱難辛苦の末、同12年(1841)南浜を完成、続いて北浜を開いた。この東野崎浜で年およそ十万石の塩を生産、山陽道の一大富豪となった」といったことが書かれています。



## ⑦見学の様子



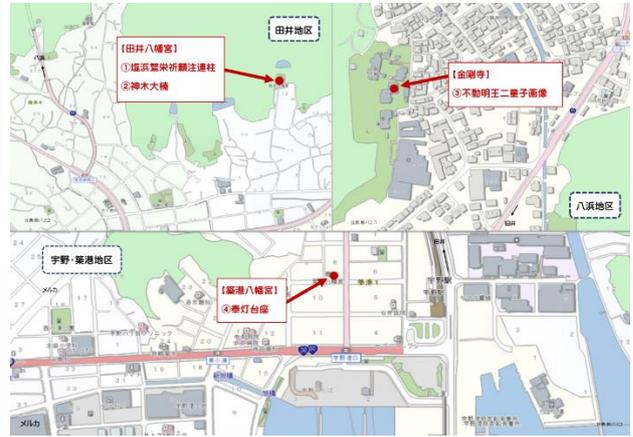
# 第3回

【開催日】平成29年11月7日(火)

## 行程

中央公民館 [展示解説]

- 田井八幡宮 [田井八幡宮注連柱] [神木大楠]
- 金剛寺 [不動明王二童子画像]  
※金剛寺は所蔵ではなく保管のみ。
- 築港八幡宮 [築港八幡宮奉灯]



### ①不動明王二童子画像

岡山県重要文化財：昭和35年(1960)4月26日指定

田井・梶原地区にある蓮華庵は児島第十四番札所です。

田井では江戸初期の寛文の寺院淘汰によって三つの寺院が廃寺となり、その後、享保6年(1721)に三か寺の仏像仏具等を集めて創建されたのが蓮華庵です。

その時の仏画の一つがこの「不動明王二童子画像」で、画像上部にある明王を讃える偈の筆跡が、南北朝期の臨済僧性海靈見と見て、昭和35年に岡山県の重要文化財に指定されました。

しかし、その後の赤外線写真撮影により版画であることがわかり、偈の筆跡も性海靈見のものかは不確定のままです。

蓮華庵は従来庵主がないため、八浜・金剛寺に保管依頼されています。当日は照明による薄暗い本堂の中での拝観となり、筆跡を十分に確認することができませんでした。



### ②田井八幡宮 注連柱

田井八幡宮の境内入口には、文久3年(1863)の注連柱の鳥居があります。

この鳥居は、この頃完成した見能瀧浜(一名城ヶ浜 木之崎沖)の竣工祈念碑です。

天保11年(1840)に開発地の見分があったあと、長期間の工事を経て、この時完成しました。

『児島郡田井村誌』によると、塩田面積9町1反余、5軒の釜屋が設けられました。

注連柱には右側に五穀成就・国家安全、左側に塩浜繁栄・天下泰平、その下に神職近土正直、田井村名主の井上・岸田・宮田氏の四名、開発元方として宮田善兵衛が刻まれています。



### ③神木大楠

田井八幡宮の右手奥には神木の楠がそびえています。目の高さの周囲 4.3m、推定樹齢約 700 年とあり、高さは約 30m といわれています。

田井八幡宮の本殿内部には、文正元年（1466）11 月 15 日「願主佐々木筑前守久信」という墨書があるといわれ、今から約 550 年前にはこの神社が存在していたことになります。

もともと田井は、建武 2 年（1335）、足利尊氏に呼応して拳兵した田井新左衛門信高の本拠といわれ、樹齢約 700 年とはこの頃のことになります。

信高は佐々木氏の一族であり、久信はその子孫とも言われています。



### ④石灯籠（奉灯台座）

築港八幡宮は、築港に人家ができはじめた明治末～大正にかけて、田井八幡宮の遷拜所が設置されたのを起源としています。

ここは天保 10 年（1839）に完成した広瀬浜 29 番浜の堤防があった地で塩釜明神を祀っていた所でした。

その堤防の東北端の 18 番浜には港が設けられ、安政 3 年（1856）11 月吉日に常夜灯が建てられました。

宇野線開通後、これが塩釜明神に移され、現在の奉灯となったのです。

この奉灯の台座には、発願主・浜肝煎・問屋・石工や、広瀬・前瀬・見能瀬浜の当作・仲士・大工（製塩指揮者）が見え、諸国客船中が奉灯の建立資金を寄付したことも記されています。



⑤見学の様子

